

「神戸市の国民健康保険料引き下げ、市独自の軽減制度の継続を求める」署名をご返信ください！

2018年に予定されている国民健康保険の県単位化にともない、神戸市が独自で行っていた保険料の軽減措置（独自控除制度）を廃止しようとしています。このままでは、高額な保険料を払いたくても払えず、滞納する世帯が激増し、安心して医療を受けられない加入者がさらに広がる可能性があります。国民健康保険は県単位化されたあとも、保険料の決定権限は神戸市にあり、神戸市がその気になれば独自控除制度の継続は可能です。

神戸支部では、兵庫県社会保障推進協議会・神戸市協議会とともに、この独自制度の

国民健康保険料の引き下げを求める署名運動に取り組んでいます。

※神戸支部会員の先生方に、署名用紙を郵送しています。12月20日までを第1次、2017年2月末までを第2次としています。お手元の署名をご返信ください。お問い合わせ・署名用紙やQ&Aリーフの追加注文は、▲078-393-1807まで。



署名用紙

ラジオ関西「医療知ろう！」

糖尿病の新たな合併症とは？

小谷支部幹事が出演

ラジオ関西番組「寺谷一紀と！ い・しょく・じゅう」内の協会提供コーナー「医療知ろう！」に、12月1日、小谷圭支部幹事（灘区）が出演した。

テーマは「糖尿病の新たな合併症～癌と認知症」。糖尿病にはさまざまな合併症があること、その中で最近になって分かってきた合併症として、癌と認知症があることなどを、パーソナリティの寺谷一紀氏の質問に答える形で分かりやすく説明した。

※当日の様子は、番組ブログや協会ホームページ



パーソナリティの寺谷一紀さん（左）に糖尿病の合併症の危険性などを語る小谷圭先生（右）

ジ<http://www.hhk.jp/topics/2016/1003-09000>0.phpからもご覧いただけます。

兵庫県保険医協会

296号 2016年12月15日

神戸支部ニュース

発行 兵庫県保険医協会神戸支部

連絡先 〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31 神戸フコク生命海岸通ビル5F

兵庫県保険医協会 TEL/078-393-1801 FAX/078-393-1802

保険請求事務講習会でスタッフら69人が請求の基本学ぶ

実習を交え保険請求の理解深まる



講師を務めた（左から）上山幸治先生、細川巖先生、江原重幸先生

協会は11月26日・27日に「初心者のための保険請求事務講習会（医科）」を協会会議室で開催。医療機関事務スタッフを中心に69人が参加した。上山幸治神戸支部幹事（西区・上山クリニック）、細川巖協会評議員（北区・細川医院）、江原重幸神戸支部幹事（長田区・江原内科クリニック）が講師を務めた。

同講習会は、協会発行の『保険請求の要点』をテキストに、保険診療や診療報酬の仕組み、窓口業務の基本など、保険請求に関する制度や事務について学ぶもの。医療事務初心者を対象

に毎年5～6回開催しており、年間で500人以上が参加する協会の人気企画となっている。

1日日は上山先生、細川先生が「保険診療とは」「窓口業務」「各項目の点数」などについて講義。受講者は薬剤の計算題などに挑戦した。

2日目には、江原先生のアドバイスを受けながら、受講者は症例をもとにカルテ3号様式やレセプト（手書き）の作成実習を行った。

2日間を通じて受講した参加者には修了証書が授与された。

タバコの吸いすぎにはご用心



講師を務めた西村一先生



喉頭がんになりやすいのはどんな人か、
などが手話通訳を介して説明された

神戸支部は11月24日に、あすてっぷKOBewith健康と医療について語り合う会を開催した。これは聴覚障害者らが医療や健康についての情報を学ぼうと定期的に開催する「聴覚障害者の医療を考える会（いのちを考える会）」の講師派遣の要請に応じているもの。にしむら耳鼻咽喉科（須磨区）の西村一先生が「がんに備える（その4）～喉頭がんの場合～」と題して講演し、市民、聴覚障害者の方を中心に32人が参加した。参加者の感想文を紹介する。

今回は須磨区にあるにしむら耳鼻咽喉科の西村先生から喉頭癌について講演していただきました。私が一番びっくりしたのは、喉頭癌になる可能性が喫煙者は非喫煙者の36倍にもなるということです（肺ガンは5倍）。ヘビースモーカーで声を出す仕事をしている方に多く、つくみさんや忌野清志郎さんの名前が挙げられていました。ただ単に声を出す仕事をしているだけで喉頭癌になる可能性は少ないようで、たばこを吸っているかどうかキーンになるそうです。

喉頭癌になると声が嘎れるので見つけやすく、初期だと手術は不要で放射線治療だけで治すことができるそうです。風邪でもないのに声嘎れが続くようであればすぐに病院へ検査に行った

方が良いと思います。

喉頭癌が進行すると声帯を摘出するか死かのどちらかのようなようでした。また声帯を摘出して生きたとしても、のど（器官）を切開して呼吸を行うため日常生活に大きな支障が出ます。また頑張って話す努力をしても簡単には上手くいかないようです。私は講演を聞き、ヘビースモーカーの父に今すぐ「たばこを止めて」と言おうと思いました。また、父や周りの人の声嘎れに注意しようと思いました。

私は「いのちを考える会」への参加は前回の子宮頸癌と子宮体癌に引き続き2回目ですが、どちらもとても先生の説明が分かりやすく、素人の私でも理解することができました。

【小山 恵里奈】



「さくらの家まつり」で患者・利用者さんと交流

細川 巖 先生（北区・細川医院）

会員どうしの交流を深めるために、役員・会員に趣味や診療のとり組み、日々思うことなど自由に投稿していただく「かざみどり通信」。

久しぶりの今回は、評議員の細川巖先生です。



（上）まつり会場で笑顔の細川巖先生
（左）患者・利用者がピアノに合わせて歌を披露した



当院の関連の術健幸会は、患者さんや利用者さん、ご家族、地域の方々との交流の場として、毎年「さくらの家まつり」を開催しています。

今年は第10回となり、10月22日、開催されました。場所は、「さくらの家」（グループホーム・デイサービス・居宅介護支援事業所）近くの岸ノ下公園。

「八多太鼓」「モダンドンチキ」「盆踊り」など、演目はさまざま。患者さん、デイサービス・グループホームの利用者さん、地域の住民を中心に、運営スタッフも含めると総勢約230名の参加で盛大に行われました。

地域のグループが行う「八多太鼓」、プロ歌手・瀬戸内三郎（奄美観光大使）歌謡ショーは恒例で、5回目となります。神戸大学モダンドンチキ（チンドン屋）の演奏では、懐かしいメロディーで昭和の時代にタイムスリップしたよ

うでした。

また、各部署職員の創意工夫による演目を毎回行っています。今回は、ファッションショー「桜コレクション」での、施設長の花魁姿が大うけでした。歌あり、踊りあり。「盆踊り」では、新作「さくら音頭」もあり。また、六調（奄美のお祝いの踊り）で盛り上がりました。最後は、私のあいさつで終わらせてもらいました。

“さくらの家”は、健康なお年寄りも、認知症の方もつどい、それぞれがその人らしく、健康に幸せに生きる施設（実は施設でなく家）として、12年前に創りました。そして2年後より、地域に開かれ、皆で楽しむ祭りを始めました。今回で10回目を迎え、大きく成長しました。多くの人の笑顔を見ることができ、元気をもらいました。

【北区 細川 巖】